

C-7 衣料用皮革縫製の基礎的研究 第二報 人工皮革の縫製条件について
東京農工大工 木下陸肥路
文化女子大家政 O竹原洋子 横溝美智子 島中千恵子

目的 衣料用皮革の縫製は、縫いずれ、縫いりかみ、ピッチエラー等を生じ、その縫製条件を決めることが非常に困難である。然るに、これらの縫製条件を示す研究は少なく、経験にたよる条件設定が行なわれている。そこで、今回は人工皮革を対照にして、ミシン縫製の比較的選定しやすい基礎的条件、すなわち、押え金、針等の選定および、押え圧、送り歯の高さ等の最適値を見い出すことを目的としている。

方法 1) 押え圧と送り歯の高さ、送り量を要因として変化させ、針と縫糸を用いずに、ミシンを稼動して布送り状態を観察し、さらに、縫いずれを測定して、縫いずれから見たこれらの条件の実用上の設定範囲を定める。2) 実際の縫製を考慮して、摩擦係数の小さいテフロン押えの使用および、クロム押えで紙を置く縫製で縫いずれを測定する。3) 皮革用ミシン針と普通ミシン針の性能を比較するために、糸を用いずにミシンを稼動して、布の針穴状態を観察し、さらに、貫通力線図を求めて検討する。

結果 1) 送り量が小さく、送り歯の高さが低いと、押え圧が大きい範囲では布送りが行なわれないか、または非常に遅い。2) 送り歯の高さが高く、押え圧が大きく、送り量が多いほど大きい。3) クロムメッキ押えの下にハトロン紙を置くと、テフロン押えと同程度の縫いずれとなり、効果が大きい。